

---

World-Set

まっく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Word - Set

### 【NZノード】

N8207E

### 【作者名】

まつぐ

### 【あらすじ】

世界が終わると知ったのは33歳の誕生日の夜だった。恐ろしいほどの混乱と困惑と悲惨さの後、世界は日に日にと静かになつていつた。

世界に終わるがくると知ったのは、33歳の誕生日の夜のことだった。

その原因は…、恥ずかしいことだが一年経つた今でも何のこととかさっぱり分からない。

多分、僕の頭が悪すぎるせいもあるだろうが。

ただたとえ良かつたとしても、この事実を変えられないなら、世界が終わるという事実以上の何も必要ないのかも知れないけど。

恐ろしいほどの混乱と困惑と悲惨を見せた後、波が引いていくように世界は日に日に静かになつていった。

あれから1年が経つた。

変わったこととして、僕はずつと田ぶらりんにしていた恋人との関係にピリオドをつけた。

今は夫婦として日々を過ごしている。

そして昨日。ギリギリの線で国家としての品格を保っている政府から最後の通達が発表された。

いよいよ明日、世界は終わるのだといふ。

薄暗い部屋の中、妻が小さく、けれど楽しそうにバースデーソングを口ずさんでいた。

どこから調達したのだろう。おそらくは虎の子に違いない材料を駆

使して、彼女は小さなホールのバースデーケーキを作ってくれたのだった。

「何作つてるとか絶対内緒！お台所に入っちゃダメだから！」キッ  
チンに閉じこもった彼女のちょっとイタズラっぽい声を聞いて、一  
緒にいられない僕は

『最期の日を無駄遣いするなよ・・・』

とこぼしたのだけれど、それは申し訳ない愚痴だった。

もたれ掛かる彼女の頬が温かい。肩越しに見える彼女の横顔は儂い  
ロウソクの灯に揺れて、微かな夕日に照らされているようにも見え  
た。

ふと、いつの間にか唄い終わつた祝い唄に気付いて。ただ何となく  
もつたいたくて、ロウソクを吹き消さずに僕は明かりをつけようと  
立ち上がつた。

と、その腕にそつと彼女が指を重ねる。怪訝そうに伺うと、彼女は  
その瞳から、今まで…結婚したときでさえ…流したことのない零を  
零して

「赤ちゃんが、出来たの」

と呟く様に言つた。

「そつ…か

彼女は目を伏せて、まだ小なお腹に触れながら『ごめんね』と泣  
きながら詫び続けた。

「じゃあ明日は、この子と3人だな

彼女の涙を拭いながら、ただ何も考えずに僕は彼女を抱きしめた。後悔なんてしてほしくなかつた。意味がないことだと、一度でも思つてほしくなかつた。

「ありがとな

彼女に。

「ありがとうな

僕達の子に。

伝えたいことは山ほどあるけど。それを重ねるより、今はただ抱きしめたかった。

そのとき、僕らを照らりじて続けていた小さなロウソクの最後の灯火が消えた。  
やがて夜を招く夕日が落ちていいくよ。

その黄昏の中、最期に彼女が微笑った気がした。

そんな風に今日も、僕らの一日が終わつた。

いつもの通り。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8207e/>

---

World-Set

2010年10月10日03時45分発行